

平成 26 年度 国立中央青少年交流の家

若者たちが企画する

富士のさと わくわくキャンプ ②子ども編

平成 27 年 2 月 6 日（金）～2 月 8 日（日） 2 泊 3 日

○目的

ボランティア養成研修の参加者等が身につけた内容を、子供対象のキャンプで実践しスキルの向上を図る。

○本事業の仕組み

当所のボランティアが子供対象のプログラムを企画立案し、当日の運営をする。



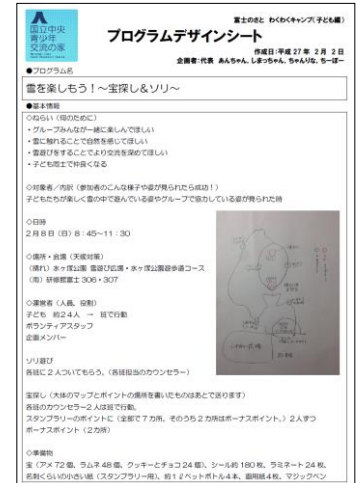
【運営に関わったスタッフと参加者】

○キャンプの企画立案

立候補のあった 17 名の企画メンバーを中心に企画立案を進めた。

各自に担当を割り振り、お互いにメール等で情報共有しながら、以下のことを行った。

- ・チラシの作成
- ・プログラムの選定、構成
- ・プログラムデザインシートの作成
- ※手順や安全管理について記載されたもの
- ・実地踏査の実施 等



【企画メンバーが作成したチラシと企画書】

○キャンプ当日の運営

当日の運営は、企画メンバーをコアスタッフに総勢 33 名（ボランティア 16 名、社会教育実習生等 17 名）が担った。 スタッフは前日から宿泊し準備や試作、最終的な打ち合わせをして参加者を出迎えた。今回の参加者は小学 5、6 年生 23 名であった。

初日【2月7日（土）】



《はじめの会》

スタッフもちょっと緊張気味!?



《雪遊びの服装は?》

実際に着用して説明しました



《グループ別に雪像づくり》

色々な作品ができました!



《ちょっと休憩》
スタッフがホットココアを用意！



《水餃子鍋づくり》

皮からこねてつくります！



《楽しい食事タイム》

心もぽっかぽかに！

2日目 [2月8日(日)]



《定番のソリ遊び》

転がり落ちて雪まみれ！



《腰切塚へ宝探し》

吹雪の中へちょっと冒険！



《おわりの会》

嬉しい感想がたくさん！

《参加した子供の声》

- ・ 初めてキャンプに参加しました。分からないことがたくさんあったけど、お兄さんお姉さんが優しく教えてくれて嬉しかったです。
- ・ 面白いスタッフがたくさんいて、みんなと仲良くできたのでとても嬉しかったです。私たちのために色々準備をしてくれてありがとう。
- ・ 参加する前は不安もあったけど、友達もたくさんできて楽しくて1泊2日が短く感じました。また参加したいです。



○キャンプを終えて

《企画メンバーの感想》

- ・ 企画段階では自分の立ち居地が分からず、うまく関わることができなかったが、当日は、みんなにサポートしてもらいながら、少しずつ先を見て行動できるようになった。
- ・ 班付きリーダーとして、その責任の重さに不安がありましたが同時にやりがいも感じた。参加者と信頼関係を築くという点で、もっと違う関わりがあったのではないかと感じた。



《成果と課題》

9月の家族キャンプの反省を踏まえ、企画と運営を分業するという体制に見直し各自の役割をより明確にした。そのことによって、より深まった議論がなされるようになった。また、“もっとこうしたい”という次につながる気持ちがスタッフ間で醸成できたことは大きな成果であった。しかしながら大人数のスタッフで思いを共有する方法については、今後もまだまだ改善の余地があると感じる。